

是ハ京ニイヅ、他國ニ多シ、勢州備前佐渡ニ多シト云、狐狸ハヲラズ、形狸ニ似テ黒シ、首ハヤセテ鼻ノ先尖ル嘴長シ、ヒル目ガウトシ、耳モキコヘズ、子ムルガ如シ、實ニチルニアラズ、夜ハ目ガ明テカニシテ、人家ニユキミソヲ盗ミテブル、ミソヲブリト云、此皮和ラカニシテ、冬シキ皮ニヨシト云、

一名 睡貉子訓蒙字會

〔佐渡志五物産〕貉ハ方言ムジナ甚多シ、一種コムジナアリ、方言トンチボウ、外海部村々ニ多シ、

〔延喜式二十一治部〕祥瑞

玄貉略○中 右中瑞

〔日本書紀六垂仁〕八十七年、昔丹波國桑田村有人、名曰甕襲ミカソ、則甕襲家有犬、名曰足往アユキ、是犬昨山獸名牟士那、而殺之、則獸腹有八尺瓊勾玉、因以獻之、是玉今有石上神宮、

〔日本書紀二十二推古〕三十五年二月、陸奥國有貉ウシナ、化人以歌之、

〔兔園小説三集〕むじな、たぬき、

海棠庵記

ある人のいふむじな、たぬきは雌雄にて、雌をむじなといひ、雄をたぬきといふとかたりき、されどさだかならぬことにて、いと心得がたく思ひしに、このごろ羽州由利郡の農民與兵衛といふもの來にけり、この與兵衛は、むかし獵人にて、南部より出づるといふ、免狀てふものまで所持して、をさく巨魁なりしと聞えければ、まねきよせて、むじな、たぬき、まみなど問ひしに、答へていふ、むじな、たぬき、まみ、皆よく似たるものなれど、各別種にて、みな雌雄あり、まみとむじなとは、毛いろも肉の肥えたるも、わきがたきまでよく似たり、只その別なるところは、まみは四足ともに、人の指の如く、方言に熊のあらし子落胤といふ、むじなは四足犬に類す、狸はあくまで瘦せて、胴のわたり長し、やつがれ十七歳より山かつの業になれて、はや六十餘歳に及び、獸の事はよ